



# ハレノヒ

大田区立松仙小学校  
令和6年2月13日(火)  
裏研究推進だより 第16号  
研究推進担当

## 体育話題提供授業 協議会記録

### 成果

### 課題&疑問

導入

展開

終末

#### ◎準備

- ・準備が素早くできていた。
- ・準備運動・補助運動がコートで行われていてよかった。

#### ◎言葉かけ

- ・教師が熱心に声掛けをしていた。児童一人一人の実態や願いを把握し、教師の願いを込めて声をかけたり、めあてを達成するために「どうすればよいか。」と問い返したりしていた。

#### ◎場の設定・用具

- ・コートが大きさがちょうどよかった。360度からシュートを打つことができるのがよかった。
- ・ボールの大きさや固さが扱いやすくてよかった。

#### ◎ポートボール練習カード

- ・次回のめあてを考える際に活用している児童がいた。自分たちの課題に対して、どうしたらよいかを選べるわかりやすいカードであった。

#### ◎個人のめあてとチームのめあて

- ・個人のめあてとチームのめあてが一致していない児童がいた。→していなくてもよい。
- ・個人のめあてとチームのめあてがどちらもあると大変ではないか。中学年では、チームのめあてだけでもよいのではないか。

#### ◎練習の選択について

- ・チームの願いと練習方法が合っていないチームがあった。

#### <授業者自評>

- ・試合に負けて泣いてしまう児童がいたが、児童の実態把握表に書いた通りの動きをしていた。
- ・ゴールの形など、児童と一緒にルールを変えてきた。
- ・自分の授業を動画で客観的に見て、気付くことがあった。今後に生かしたい。

#### ☆「勉強になった！」ポイント☆

内山先生の大きな声が校庭に響き、体育の授業に活気が出ていた。トークのテンポや切り替えの速さは、普段からのマネジメント力の賜物であると感じた。児童一人ひとりの課題やチームのめあてをしっかりと把握して的確なアドバイスをする姿は、児童ができたと感じる大きな手立てである。教師の声掛けが自信につながり、次回も頑張ろうとする児童の姿が目につく素敵な授業であった。

## 指導・講評

### よかったところ

#### ☆教師の言葉かけ

気温は低いですが、心が温かくなるような授業であった。内山先生のすごさ、トークのテンポや切り替えが速い。児童の実態把握表にも、一人一人をよく見ていることがわかる。勝ちにこだわって、ばねにして次の試合も頑張りたいという気持ちが大切である。先生の情熱がにじみ出ている。

#### ☆1時間2試合

1時間の授業で2試合やることに意味がある。2試合目はうまくなる。時間を確保するためにそれぞれのコートで準備運動をするのもいい。

### 今後に向けて

#### ★ゲームキャッチフレーズを作るとよい

例：「投げたら走れ・走ってもらえ・ボールの前に味方が2人」

上記のような、ゲームキャッチフレーズを作ると、試合の中で課題であるボールに集まってしまう児童の動きが変わってくる。

#### ★コートの工夫について

ゴールの形は、円でなくても三角形やひし形もあり。また、カットマンにカットされすぎてしまう時には、円を二重するなど、まだまだ工夫することができる。

## キラリと光る付箋

### 〈作戦カード〉

- ・自分たちがうまくいかないところを相談して、練習の仕方を選べるようになっていたのはよかった。子供たちにもよくわかる資料だった。
- ・作戦カードは3年生の実態からみて情報が多く、もう少し減らしてもよいのではないか。
- ・作戦カードがあることによって、自分たちの課題を克服するための練習を選んで行っていた。

### 〈ルールの工夫〉

- ・【赤白帽子制度】白帽子の子に声掛けしてあげていたし、やる気にもつながる。
- ・【程よいコートの広さ、円形のゴール】大量得点すぎず、ゲームが動かないわけでもない。3点前後の点が取れる。後ろからもゴールができるので、点を入れるチャンスが多い。

### 〈言葉かけ〉

- ・教師が「あと一点取りたいんでしょう？」と問いかけ、一人一人の思いを確認することによって意欲を引き出し、「じゃあどうすればいい？」と考えさせていた。
- ・教師の言葉かけ（価値付け、修正等）熱心な先生の姿がすてきでした！

今回の授業を通して、実態に応じた場の設定や手立てが必要だと感じた。人数に対して余裕をもってコートの大きさを設定することで、ボールをもらうために空いているスペースに動いたり、得点しやすい位置に移動してゴールしたりと、児童が考えながらゲームを行っていた。作戦カードもチームの課題に合わせて選択し、有効的に活用できていた。学年に応じて字数を減らしたり、イラストを多くしたりするとさらに活用しやすくなる感じた。また、教師の言葉かけでは、価値付けやアドバイスだけでなく、児童から言葉を引き出すような問いかけをすることで思考を促すことに繋がることを学んだ。児童に合った手立てを取り入れ、主体性を高めていけるような言葉かけを行っていきたい。